薫泉（くんせん）

学校の目標
社会の変化に自ら対応でき、豊かな心をもち、表現力豊かな国際人を目指し、次のような子どもを育成する。
- よく考え、進んで学習する子ども
- いつも元気で、じょうぶな子ども
- こころ豊かで、やさしい子ども

デジタルシティズンシップという考え方

校長　井上光広

今年の二月一日に国の重要施策である「ＧＩＧＡスクール構想」実現に向けて、児童一人一台のタブレット端末が配置されたのは周知のことです。その意味合いは、Ｓｏｃｉｅｔｙ５・０時代を生きる子どもたちに、タブレット端末という「文房具」を活用できる能力を、早い時期から育成することや、学びの最適化という言葉で表されるような、個に応じた学びの蓄積を目的としました。これまで遅々として進まなかった一人一台端末が、コロナ禍の影響で全国的に一気に導入されるという極めて大きな変化の中に、私たちは生きています。様々な準備が後手に回ることはあるでしょう。

自分のタブレット端末を手にした児童の中には、インターネットにつなぐことができるゆえに、自身に入ってくる情報に振り回されて、学びの方向性を間違えてしまっている姿も伝わってきます。

本校では、十二月十一日（土）に情報モラル教室を授業内では五・六年生を対象に、そして保護者や地域の方々を対象に四校時に講演会を行う予定になっております。この機会に、最新の情報モラル指導について把握するために、ぜひともご参加ください。

こう述べはしましたが、もはや「情報モラル教育」という講演会システムでは古くて通用しないという考え方もあります。圧倒的な情報量とその速さの前に、数か月たったら最新情報が過去のものになっていきます。物心ついた時からデジタル機器が身近にある子どもと、そうではない大人との世代間の感覚もずれていきます。そこで、「デジタルシティズンシップ教育」の重要性に注目され始めています。これまで行われてきた「〇〇すべからず」という制限を加える教育ではなく、大人も子どももＩＣＴの「よき使い手」「優れたデジタル市民」になるために必要な能力を身に付けていくことを目的とした教育を「デジタルシチティンシップ教育」と言います。例えば、よくオンライン上で議論が炎上するということを耳にしますが、そうなる前に「思いやり」をもってオンライン上での振る舞えるように、疑似体験通して身に付けておくことが必要です。危機回避するための知識ももっていなくてはならないことは当然です。学習指導要領には情報モラルについて次のように示されています。

「他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつことや、犯罪被害を含む危険の回避など情報を正しく安全に利用できること、コンピュータなどの情報機器の使用による健康との関わりを理解することなどである。」

教育の目的は、目の前の子どもに、自分の力で人生の幸福を勝ち取っていける力を育むことです。デジタル機器も、幸福をつかむ一つの手段として存在させることが大切だと感じます。

『きれいな教室にしよう』

生活活指導部

今年も残りわずかになりました。新年を気持ちよく迎えられるように「身の回りの環境を整えること」を呼びかけます。

道具箱の中の整理や使わなくなった学習用具の持ち帰り、清掃活動にも力を入れて、年末には大掃除を行います。整った環境で学習する心地良さを理解し、心遣いを大切にできる児童を増やしていきます。ご家庭でも、整理整頓を呼びかけ、新年からの学習準備を整えるよう、声掛けをお願い致します。

また、冬休みの生活については、「よいこの冬休み」を配布いたします。お子さんとよく話し合い、約束を決めて、安全で事故のない楽しい年末・年始をお過ごしください。

『矢口文化芸術劇場』

文化的行事委員会

感染症の流行以来停止していた「室内に大勢の人を集めて発表する行事」を遂に実施することができました。

児童が舞台で発表するものは多くありますが、音楽と演劇がその代表といえます。どちらも学年・学級で協力して一つのものを作り上げていく学習が不可欠となります。中には、人前で声を出すことが苦手な児童もいますが、練習を重ねていくうちに、各自がそれぞれの役になりきり、本番では精一杯の演技をすることができました。

昨今では、リモートでの鑑賞も多く行われている世の中ですが、舞台発表ものは、決められた時間にその会場にいてこそです。演者・観客・そしてスタッフがいて成り立ちます。どのような立場であっても、その会場にいる人のすべてが、心温まる時間になっていたら、この行事が成功したものと考えています。

今回は、さまざまな制限のある中での実施でしたが、保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。